



三木町 議会だより

No.138

2012.January

<http://www.town.miki.lg.jp/>



読売巨人軍入団の
松本 竜也選手



次は僕らの番だ頑張るぞ!!
(平井軟式野球スポーツ少年団)

12月定例議会

- 一般質問 6~13
8人が一般質問に立つ
- 来年度予算に活かせ 14~15
決算委員会から7つの指摘
- 元気なグループ紹介 18
香川ジュニア アイスホッケークラブ

議	議	議	議	議	議	副	議
員	員	員	員	員	員	議長	長
白	西	糸	原	筒	石	香	古
井	丸	井	田	井	井	西	市
正	一	明	照	米	定	茂	弘
治	明	人	治	市	夫	知	
議	議	議	議	議	議	議	議
員	員	員	員	員	員	員	員
高	十	藤	村	富	渡	三	香
藤	川	井	松	田	辺	木	西
周	治	匠	修	修	達	和	義
介	郎		司	実	実	典	典

明けまして
おめでとーございます

輝かしい新春を迎えて



議長 古市 弘



副議長 香西 茂知

新年、明けましておめでとうございます。平成24年の年頭にあたりまして、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。今年は辰年であり、昔から竜は天に昇るといふことで、縁起の良い発展する年だといわれております。昨年3月11日に発生いたしました被害総額25兆円を超える世界

最大級の東日本大震災、福島原子力発電所事故の爪跡も生々しく、今、復旧・復興への長い道のりを歩んでおります。どうか、東北の地に一日も早く安寧な日々が訪れますようお願いいたします。また、ギリシャの財政危機に端を発したユーロ圏の金融不安による世界経済の減速やタイの洪水被害、歴史的な円高デフレの進行、株安、産業の空洞化など、これらが我が国経済に及ぼす不透明感も懸念されている昨今であります。

今年こそは、このような課題や試練を克服し、我が国が、活き生きと竜のごとく天に昇り、大きく飛翔する一年であってほしいと切望してやみません。本町では、積年の課題であります下水道事業をはじめ、新イベントの開催、百眼百考会議の提言など、住みたくなる町づくりに向け、旧年にも増して果敢に挑戦して行かねばなりません。本町議会といたしましても、住民皆様方のご意見を町政に的確に反映するよう、なお一層の努力を傾注してまいりたいと存じますので、ご協力とご支援をお願い申し上げます。



選挙管理委員および補充員を選挙

任期満了に伴う、町選挙管理委員および補充員の選挙が12月14日の本会議場で行われ、次の方々が当選しました。

◎選挙管理委員（敬称略）

- 志渡 佳嗣（63歳）井上
- 三木 義美（79歳）鹿庭
- 蔭山 繁雄（76歳）氷上
- 植松 幸三（64歳）平木

◎補充員（数字は補充順位）

- ①横山 學（71歳）田中
- ②中山 敏夫（68歳）上高岡
- ③十河 忠義（66歳）下高岡
- ④中村 俊忠（70歳）井戸

議会の動き

10月	4	議会広報編集委員会
12月	13	下水道推進特別委員会視察研修
14		議会広報編集委員会
17		議会運営委員会
18	20	決算特別委員会
21		第2回臨時議会
24	26	全員協議会
27		議会広報編集委員会視察研修 香川県町村議会議長会 主催議員研修会
11月	1	決算特別委員会（現調）
4		決算特別委員会（総括）
8		行財政改革推進特別委員会
21		総務建設常任委員会 教育民生常任委員会
29		下水道推進特別委員会
30		議会運営委員会
12月	7	第4回定例議会開会 （議案の上程、質疑）
8		議会広報編集委員会
9		総務建設常任委員会
12		教育民生常任委員会
14		本会議（二般質問）
		本会議（議案の質疑、討論、採決、追加議案の上程、採決）閉会

12月 定例議会



▲本会議採決の様様

平成22年度決算を認定 選挙管理委員および補充員を選挙

平成23年第4回定例議会は、12月7日から14日までの8日間で開かれた。平成23年度一般会計・特別会計補正予算のほか、職員の給与に関する条例等の一部を改正についてなど、14議案ならびに議員発議による意見書（案）1議案が上程され、各委員会や本会議で慎重に審議し、全議案を原案どおり可決した。

決算特別委員会に付託されていた平成22年度の各会計10件についても本会議にて、全議案を認定した。一般質問では、8人が登壇し、雇用問題、新年度予算編成、認定こども園計画・取り組み、新体制1年経過の成果と課題、格差のない福祉施設運営、各産業ごと・総合的な成長戦略などについて、町長の見解を求めた。また、選挙管理委員および補充員を選挙、人事案件では、任期満了に伴う人権擁護委員1人の推薦に同意し閉会した。

人事

人権擁護委員の 石濱美枝子氏の選任に同意



初就任
井戸(54歳)

議案を審議

問 にぎわいづくり支援委託料96万円は何を委託するのか。

答 政策情報課長
祭りに対する専門知識を持っている人物を、人材派遣センターから3カ月間事務補助として委託するものである。

問 農業災害復旧費の小規模災害復旧事業補助金は。

答 産業振興課長
災害復旧工事の査定において、欠格ならびに事業費が40万円未満については、町単独で補助を行う。

問 原子力・エネルギー
―教育支援備品購入費は、平井・氷上小学校のみか。

答 教育総務課長
備品（手回し発電機等）購入については、毎年1校か2校申請をして実施していく。

議案を 審議

みき山荘へ町有地を 無償貸し付け

職員給与を引き下げ

人事院勧告により職員給与を引き下げる。若年層は据え置き、中高年層を減額する。

問

県下における本町のラスパイレース指数(*)と順位は。

答

総務課主幹 88・3(平成22年4月現在)で県下最下位である。

財産の無償貸し付け

特別養護老人ホーム「みき山荘」の増築に伴う同施設の駐車場として、町有地を無償貸し付けする。

問

無償貸し付けとなった経緯は。

答

健康福祉課長 過去の「みき山荘」誘致の経緯とあわせて、施設の立地場所等から判断し、隣接する

町有地を駐車場として貸し付ける。

「さぬき市・三木町 県行造林組合」解散

「さぬき市・三木町 県行造林組合」が平成24年3月31日に解散することに伴う財産の処分、関連する規約等の改正を行う。

三木町税条例等の一部を改正

地方税法等の一部改正に伴う寄附金税額の控除の適用下限額の引き下げ、および租税罰則の見直しが行われたこと等に伴い、関係条例を改正する。個人住民税の寄附金税控除については、



▲40床増床計画「みき山荘」の現地調査

適用下限額を、5千円から2千円に引き下げ、適用対象に社会福祉法人を新しく追加する。

また、納税義務者が町税の申告提出の手続き等を行なわなかった場合、過料の限度額を3万円から10万円に引き上げ、上場株式等の配当所得、譲渡所得等に対する軽減税率の特例を2年間延長する。

災害弔慰金の支給範囲に兄弟姉妹を追加

災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い、関係条例の改正をするもので、支給範囲に兄弟姉妹を追加する。

※ラスパイレース指数
地方公共団体の一般行政職の平均給与を、学齢別、経験年数別構成などが国と同一であると仮定して国家公務員の平均的な給与額を100として算出された指数のこと。

■各会計予算を補正

会計名	補正額	補正後の総額
一般会計(第5号)	1,848万1千円 追加	91億4,496万6千円
一般会計(第6号)	638万 円 追加	91億5,134万6千円
一般会計(第7号)	3億4,300万7千円 追加	94億9,435万3千円
国民健康保険事業特別会計(第1号)	2,209万9千円 追加	30億6,309万9千円
介護予防サービス事業特別会計(第1号)	335万3千円 追加	2,435万3千円

委員会 レポート

下水道の処理方式を 膜ろ過法へ

総務建設

11月開会

町有地払い下げを審議

氷上丸岡にある個人の土地の中に町有墓地がある事が判明したため、払い下げの申請が出され、承認した。

問 当該地は、国土調査の図面に含まれていなかったのか。

答 総務課長

当時の調査制度に問題があり、もれていた。

教育民生

11月開会

継続審査と すべきことに決定

「高齢者のはり・きゆう・マッサージ治療に対する助成金確立」

を求める陳情について、審査をした。

問 県内における利用者数および施術所数は。

答 健康福祉課長

県内には125診療所があり、そのうち本町は3診療所で、利用人数の把握は医療費の適用がないため難しい。

行財政改革

11月開会

常任委員会の あり方を論議

常任委員会の所管事務調査は、自主的に行うことができる。

各常任委員会が、各定例会の間に一回以上自主的に所管事務調査の委員会を開会し、執行部に説明のための出席要請をすることを提議した。

下水道推進

11月開会

処理方式を変更

下水道の処理方式を、OD法から膜ろ過法へ変更することの論議を行った。審議の結果、全会一致で膜ろ過方式に変更していくことを了承した。

問 なぜ処理方式の変更をするのか。膜ろ過法の特長はどのようなものか。

答 上下水道課長

住民への説明会などで、大水対策や処理水の水質、経済比較などの意見や不安が出されていた。

膜ろ過法は汚濁物質の除去性能の向上、施設のコンパクト化、容易な運転管理、発生汚泥量の削減、病原微生物の除去などすぐれている。住民の意見も踏ま

え、方式の見直しを提案した。

問 住民への説明や理解を求める取り組みはどのような状況か。

答 上下水道課長

下水道事業の推進にあたり、処理場周辺の住民との話し合いを続けている。引き続き理解が得られるよう最大限の努力をしていく。



▲膜ろ過法先進地施設視察（島根県大田市浄化センター）

8人が町政を問う

問 町内企業の活性化を

答 可能な限り町内企業を優先して発注したい



一般質問
富田 修司 議員

長引く不況の中、町内の中小企業・個人商店の皆さんには、地元のために大変なご尽力、ご協力をいただいている。

町発注の仕事に町内業者の参入を考えられないか。

町長

町内中小企業の皆さんが、様々な活動で地元にご貢献いただいていることは、十分承知している。今後とも、町発注の工事や物品調達については、可能な限り町内業者への発注を基本としていく。



▲多くの人が働く高松東ファクトリーパーク

雇用対策を

正規雇用の推進に町としての取り組みを。

町長

正規雇用促進の取り組みとして、高松東ファクトリーパーク

ク内の企業には、地元からの採用をお願いしている。

下水道事業の財政

下水道事業の地方債残高と基金残高は。

町長

交付税措置のある地方債を活用しており、平成22年度末の残高は、公共下水道事業8億7千万円余、農業集落排水事業10億円余となり、公共下水道の減債基金残高は、1億2千7百万円余である。

下水道事業に対する基金を積みたてよ。

町長

下水道施設建設が進むにつれて起債残高の増加が懸念されるので、減債基金への積み立てを検討していきたい。



▲太陽光発電が設置されているサンサン館みき

起債（借金）の償還は。

町長

起債の元利償還金の44パーセント程度が普通交付税として、後年度に措置されることになっている。

太陽光発電の推進を

町長

本町でも来年度から県の補助制度と連携した中で、新たに補助制度を導入する。

問 新年度予算編成

取り組みの基本姿勢は

答 「まちづくりは人づくり」を基本に取り組み



一般質問
原田 照治 議員

町長は就任2年目に入り、これから新年度予算に取り組んでいくが、厳しい社会・経済情勢の中、どのような基本姿勢で臨むのか問う。

町長

「まちづくりは人づくり」の基本理念のもと、町民の満足度を高めることを基本として編成する。

再度の機構改革の考えは

多様化する住民ニーズに即応できる体制の構築は、不可欠である。新年度に向けて各課の事務の再配分、さらに

は課の再編に取り組み考えはあるか問う。

町長

最大限の住民サービスが提供できる組織のあり方を検討し、人員配置の適正化を徹底した、新しい体制作りに取り組みたいと考えている。

「百眼百考会議」からの提案をどう生かすか

町長肝いりで始まった百眼百考会議の仲間づくり部会から提案のあった「まちづくり協議会連合会の結成」に向けての方策と予定を問う。



▲各課の再編はあるのか

町長

自治会組織の活性化がこれからの重要課題であると考えており、研修会の開催などから着手し、各地区協議会の設立、最終的には町づくり協議会連合会の結成に向けて新年度から取り組みを始めた。

にぎわいづくり部会から提案のあった「活き生きふれあいまつり」のあり方について問う。

町長

「活き生きふれあいまつり」の開催場所を町中心部へ変更することについては、今年度中に基本計画を策定

する方向で取り組んでいる。

少子高齢人口減少社会に対する対策は

協働型福祉社会の実現には、公助を最大限に強化する必要があると思うが、急速に迫り来る少子高齢人口減少社会に対する対策と考えを問う。

町長

少子化対策としては、乳幼児やひとり親家庭に対する医療費の助成、高松市と連携したファミリー・サポート・センター事業の充実などに努め、「人と地域が輝き活力と笑顔あふれる町三木」の実現を目指し、更なる子育て支援対策を推進する。

今後の介護保険計画は

が必要になったとしても、尊厳を保ちながら安心して介護サービスを受けられる社会の実現を目指す。

第5期高齢者保健福祉計画策定の進捗状況と介護予防日常生活支援総合事業の取扱に対する考え方を問う。

町長

高齢者保健福祉計画については、計画策定委員会をこれまで2回開催し、向こう3年間のサービス見込量などを審議・協議している。

来年4月から新設される介護予防日常生活支援総合事業は、現行のサービスを受けている方の意見を聞くとともに他市町の取組予定などを調査して、慎重に研究する。

問 認定こども園の計画案は

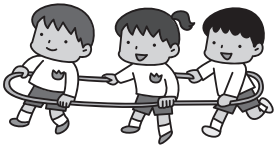
答 実現を目指す

子育て支援対策としての認定こども園の計画案は。

教育長

地域の子育て支援センターの役割も果たせる保育園と幼稚園の連携型（認定）こども園の実現を目指す。

時代のニーズとして、幼保一体型幼稚園の整備が求められている。乳・幼児から中学校までの15年間を見通せる教育体制の構築を整える。



▲預かり保育も充実しています(田中幼稚園)



一般質問

高藤 周介 議員

耕作放棄地対策は

農地を守るための耕作放棄地解消の仕組みづくりは。

町長

土地改良事業にあわせ、中山間地域直接支払交付金、農地・水・環境保全向上対策交付金等、耕作放棄地解消に向けての支援を行っている。

また、農地パトロールにより耕作放棄地マップを作り、草刈の指導や意欲のある担い手に、利用権設定の利用を勧めて農地の活用を図り、補助金制度の活用を啓発していく。



▲耕作放棄地(平成23年12月撮影)

行政評価システムの活用方法は

評価の目的や活用方法が明確でなく、事務事業評価形骸化の問題は。

町長

本町では平成19年度から実施しており、評価結果は広報

やインターネットで公表している。

重点施策の検討や事務事業の改善をし、予算編成の参考になっている。

評価の目的や意義が職員全員に浸透していないという現状を踏まえ、今後職員全員の理解を深めるような研修に取り組む。

問 町民の福祉・

医療を向上させよ

答 基礎的サービスを確実に確保していく



一般質問
渡辺 達実 議員

医療・介護などを通じて、町民の福祉を向上させることが施策の重要な柱の一つと考えるが、高齢者、障がい者福祉の充実の基本的な考え方を問う。

町長

子育て支援の充実、地域医療の確保、高齢者や障がい者に対する福祉や介護サービスといった地域住民の生活を支える基礎的サービスを確実に確保していく。

高齢者・障害者福祉
計画の策定状況は

各種の法改正が行われている。今後の取り組み

状況を問う。

町長

「第5期三木町高齢者保健福祉計画」、「三木町障害者計画」を策定中である。高齢者・障がい者福祉サービスの充実を図っていく。

子育て支援の充実を

乳幼児医療費助成制度などの取り組み方針を問う。

町長

乳幼児医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成制度の施策拡充は、県に要望書を提出している。

下水道事業の進め方は

町民は下水道の整備を期待と不安の中で状況を見守っている。住民のみなさんの理解と協力が重要である。今後の進め方を問う。

町長

計画を見直し終末処理方式を「膜分離活性汚泥法」に変更し、放流水の水質改善、大水時対策として、遊水池を確保し、排水機能を持たせるなど、環境が悪くならないよう努力している。
男井間池や女井間池の耐震診断、耐震工事に取り組んでいく。

町税滞納者への行政サービス制限は止めよ

町民はくらしのさまざまな困難を抱えている。町税滞納者への町独自施策（奨学金貸与、学童保育、町営住宅入居等10数件）の利用制限は廃止すべきだ。

町長

計画を見直し終末処理方式を「膜分離活性汚泥法」に変更し、放流水の水質改善、大水時対策として、遊水池を確保し、排水機能を持たせるなど、環境が悪くならないよう努力している。
男井間池や女井間池の耐震診断、耐震工事に取り組んでいく。

職員の給与、労働条件、定数等の改善を

公務員の給与や労働条件は、民間事業所の基準を示す大切な指標の役割を果たしている。町職員の労働条件等に対する考え方を問う。

町長

職員の良い労働条件の確保が、住民サービスの向上につながるものと考えている。更衣室の改善、食堂の整備など考えている。職員の適正な処遇に努めていく。

太陽光発電へ補助金を

東日本大震災、大津波被害、原子力発電所事故から教訓とすべきことは多い。

町長

自然エネルギーや再生可能エネルギー

の利用、環境に優しい事業の取組みが課題となってきた。来年度より太陽光発電への助成制度に取り組んでいく。



▲東日本大震災（陸前高田市）

男女共同参画の重要性を考えた人事政策を

今後の人事政策を問う。

町長

各種審議会等への女性委員の登用も、政策決定への女性の参画につながるものである。積極的な人事政策を行っていききたい。

問 24時間保育の実現を

答 当面は延長保育から実施を



一般質問
西丸 一明議員

「夜も昼も子どもは平等」のポリーシの下、働き方が多様化する時代に、夜働く親を支え、子供たちの育ちを見守ってきた、全国初の24時間保育を実施している東京都内の保育園を視察に行ってきた。



▲全国初の24時間保育の保育園(東京都)

町長

幼保一体化の流れの中で、当面は預かり保育の充実を目指していく。24時間保育は体制づくりをしながら、検討したい。

幼保一元化(仮称子ども園)の取り組みは

幼稚園と保育所を統合した幼保一体施設の本格導入など、子育て施策を大きく見直す「子ども子育て新システム」の概要が固まった。

本町の取り組みについて考えを問う。

教育長

「子ども園」へ移行するための新システムは評価できる。時代のニーズに応じた三木町独自の質の高い就学前の教育を目指していきたい。

子育てサポート策の充実を

オギャーと生まれてから子育ての10年間に温かいサポートをすべきだ。病後児保育・障がい児保育・年末年始保育・祝日保育など、他町にない三木町独自の

子育てサポート施策を実行できないか。

町長

高松ファミリー・サポートが出張で一時的にかりを実施しているが、これからは町単独で、子育てサポートに取り組んでいきたい。

廃校施設の有効利用を

廃校や廃園の施設を民間団体に貸し出しをするなど民間活力を活用して官民一体となつて施設の充実を図ることを提案する。

町長

廃校・廃園の施設利

用は、ぜひ前向きに取り組んでいきたい。同時に、民間活力の活用は必要と考える。今後は、そのようなことも想定しながら情報が提供できるように取り組んで行く。

介護施設の充実を

長寿者の増加によって寝たきり老人や認知症老人が急速に増える一方で、高齢者が入院する「療養型病床」が「社会的入院」と呼ばれ医療費の無駄遣いとして問題視され、「療養病床」が廃止・削減されている。

医療救急情報キットの配布を

身近な場所に憩の場があることも大事である。本町に来てくれるような社会福祉法人やNPO団体などがあれば歓迎である。今後、子育て、老人介護の施設の充実を図っていきたい。

一人暮らしの高齢者や障がい者らを対象に、病歴などを記したメモを冷蔵庫に保管するプラスチックの容器を配布してはどうか。

健康福祉課長

高松市も本年末にも配布すると聞いている。本町も今後検討していきたい。

町長

町内には廃校、廃園および町所有の遊休地がある。

問 格差のない福祉施設運営を

答 国や県へ機会を捉え、格差解消の要望を訴える



一般質問
村松 修議員

2006年12月の国連

総会で「障害者権利条約」を採択した。

国では、新たに「障害者総合福祉法」の制定に向けて次年の通常国会に提出の予定である。

国・県では事業の安定化を図るため、基金事業による従前額の9割保障が実施されてい

る。

従来の施設は9割保障、新法になってからの施設は1日単位の計算になる。

障がい者が一定水準の支援が受けられるよう、本町としても従来の福祉施設と新法後の福祉施設に格差が生じないよう、国や県に要望をお願いしたい。

また、持続可能な事業運営を進めて行くため、町としても軽作業委託を考えてはどうか。町長の見解を伺う。

町長

障害者自立支援法の円滑な施行を図るため、平成18年から20年までの間、事業者に対する運営の安定化措置として、県に造成した基金を原資として、支援法の施行によって生じる減収分の激変緩和や直ちに移行できない事業者の経過的な支援が行われてきている。

この対策は新法への移行が進まないことから、さらに平成23年度まで延長され、今年度

に至っているが、本町としても国や県へ機会を捉え、事業所が円滑に新法に移行できるように格差解消の要望を訴えていく。

交通安全対策を

交通安全対策を

香川県では、交通事故死亡率が全国一位といった不名誉な記録があったに記載されている。

交通事故からお年寄りや子供たちを守るためにも、私たちは、交通ルールを教えていかなければならない立場であると思っている。

先般来から気に留めていた学校正門前の横断歩道が消えてしまっ



▲消えた横断歩道(平井小学校正門前)

ているので、学校と本町に問い合わせたが、要請はしていないとのこと

で、東署に向き要請したが、早くも半年、通常では一年先といった説明を受けた。

子供たちへの交通ルールを教えていくためにも、また、新入学生を迎える準備の一つとして、町として県へ要望すること、早急に対応で

きないか、町長の見解を伺う。

町長

平井小学校正門前の道路は県道であるため、長尾土木事務所から東署へお願いをしていただくといった手法になり、かなりの時間を要するが、町からも、できるだけ早くするように申し添えたい。



▲福祉施設での苗付け作業

問 三木インター・高松東インターを どう活用するのか

答 一日2万台通過している車の1割を
三木町に降ろしたい



一般質問
十川 治郎 議員

三木町の成長戦略
について問う。各産業
ごと・総合的な成長戦
略は。

町長

農業分野では、農業
生産品のブランドの掘
り起こし、商工業で
は、熟練工育成のバツ
クアップに努めたい。
観光では、来年度リ
ニューアルされる「活
き生きふれあいまつ
り」（獅子舞フェス
タ）を軸に、町内の歴
史ある祭り、緑あふれ
る自然との融合を図
りながら、観光振興に
つなげたい。

三木インター・高松東
インターの活用を問う。

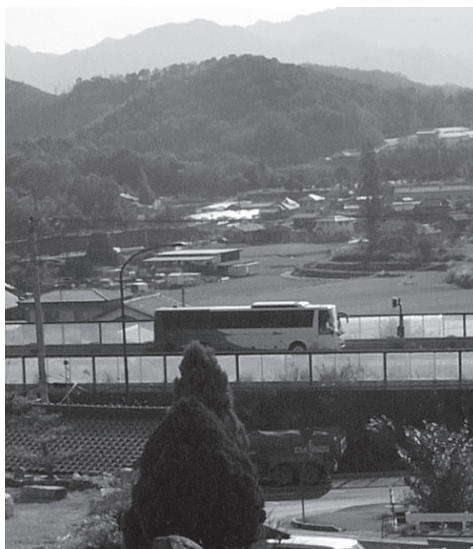
町長

一日2万台が通過し
ている車の1割でも三
木町に降ろす構想を持
ちたい。
かつて私は、県議時
代に町商工会青年部に
対して、平木商店街で

の1店で2種類ずつ70
種類のうどんを食べさ
す「うどん村構想」を
提案したことがある。

町長

両インターの活用
は、三木町の成長戦略
に欠くことのできない
ものである。



▲高松自動車道(三木インター～高松東インター)
このバスを三木町に降ろしたい

道の駅についての考
えは。

町長

道の駅は、施設の建
設ができては運営が非
常に困難と思うが、町
内各界から建設要望
がある。今後は、J
A・商工業者・行政が
チームをつくって研究
すべきと考える。

高齢者の仕事場つくり に町の支援を

高齢者は大変勤勉で
有能な働き手でもある。
有名な成功例として
徳島県上勝町の葉っぱ
ビジネスがあり、年収1
千万円をかせぐお婆あ

ちゃんもいるという。
三木町では、琉球紅型
作者である人間国宝の鎌
倉芳太郎氏の晩年にお
ける活動の例がある。
本町において、お年
寄りの仕事の場をどの
ようにしてつくるのか
お尋ねをする。

町長

労働をして収入を得
る喜びをいつまでも感
じていたいお年寄りの
ためにも、シルバー人
材センターを最大限活
用して支援していく。



▲剪定作業(シルバー人材センター)

町教育委員会が幼
小・中で来年度取り組
む重点政策は何か。

教育長

次年度予算要望の
段階ではあるが、氷
上幼稚園においてゼ
ロ歳児から入園の間
での幼児を対象に
「親子こども相談
室」、「預かり保
育」を開設したい。
また、各幼稚園で取
り組んできた食育推
進や体力づくり推進
をより進める。

小中学校では、各
教室のエアコン設
置、ロッカーの改修
を予定している。外
国人指導助手を導入
して小中学校の英語
教室の充実と活性化
を図る。
田中・白山小学校
のコミュニティスク
ールの推進を継続し
て、成果を県内外に
発信したい。

問 平成24年度予算編成は

答 町民の満足度を向上させる



一般質問

香西 義典 議員

厳しい状況の中、どのような目標を掲げ新年度予算編成を取り組んで行くのか基本的な考えを聞く。

町長

町民目線に立脚し、不要不急な事業の大胆な見直しや、新たな政策・効果の高い政策に財源を重点配分し、時代に即した予算構造への再構築を行う。

予算配分の重点化
促進の事業は

発生率が高まっている
東南海・南海地震の防災
対策の取り組みを問う。

町長

東海、東南海、南海地震が連動した大規模震災を想定範囲とし、物資を迅速に活用できるよう、本年度から2カ年をかけ町内主要避難所に隣接する位置に備蓄物資倉庫を18カ所整備やこの倉庫に保管する組立トイレやヘルメットなども近く発注する予定である。

ため池のハザード
マップ緊急支援事業は

この事業は、池が決壊した場合被害が予想される10万トン以上の池を対象に、県がハザードマップ作りを支援するとされているが、今後の取り組みは。

町長

県では、決壊した場合に甚大な被害が想定される貯水量10万トン以上の200カ所のため池について、ハザードマップを作成し、防災意識の向上に努め、被害の回避と軽減を図る。



▲耐震診断が予定される男井間池(池戸)

本町においては、来年度から2カ年での事業計画を計画している。

ご当地ナンバーの
導入は

原動機付自転車のナンバープレートは、町の特産を生かした形状、町の特性をアピールする文字・絵柄を付け加えたりして走る広告塔となり、観光振興等の観点から、導入についての考えは。

町長

現在の在庫が1年から3年分あること、デザインを変更するための金型の製作など新たに費用が増加すること等、課題もあるが、観光振興・地域振興の観点から、今後、検討する。

幼保一体化を

将来を担う園児が時

代のニーズに応じた質の高い教育を享受できるように、幼保一体化施設(認定こども園制度)が必要であると考えるが。

教育長

平成23年2月から、「三木町立学校適正化審議会」を立ち上げて、「子育て支援」の充実や「登降園時の安全性や利便性」の確保等を含め、町内幼稚園体制と教育環境の見直しを行っている。

このたびの、国の子ども園構想は、明治以来、百数十年続いてきた幼稚園体制からの脱却で、全く新しい就学前教育体制の幕開けである。

今後は、町内の私立保育所や私立幼稚園の役割を尊重しつつ、三木町独自の幼保一体化こども園構想を実現したいと考えている。

来年度予算に活かせ!

決算委員会から

7つの指摘

10件の決算を認定

9月の定例議会で、決算特別委員会に付託された22年度各会計決算10件は、14日の本会議で、西丸委員長の審査結果報告に続き採決が行われ、一般会計および後期高齢者医療事業特別会計については賛成多数、その他の特別会計および水道事業会計合わせて8件については、全会一致で認定した。

委員会では、5日間審査した結果、7項目を当局に指摘し、来年度への対応を提言した。

指摘事項は、次のとおりである。

なお、これらについては、平成24年3月定例議会において、町長より状況報告される。



▲H23.3.11の大震災

1 自主防災組織の活動の充実を

問 自主防災組織の活動はどのような状況か。

答 町長

町内の自主防災組織の組織率は82%、各地で取り組みが行われている。

提言

平成23年3月11日発生の東日本大震災を教訓に、今世紀前半にも発生が予想される南海・東南海地震に備

え、総合的な防災計画に基づき、自主防災組織の機動力強化を図るなど、防災活動の拡充に努められたい。

2 補助金や委託料の見直しを図れ

問 慣行的な委託料や補助金の見直しをはかられたい。

答 町長

町民の汗と涙の税金は公平・公正な運用をすべきである。何年も見直されていない委託料や補助金は早急

提言

に見直す考えである。

全ての町単独補助金、委託料などの見直しを行い、慣行的な補助金や委託料については早急に精査し改善するなど、町民の税金の公平・公正な運用に努められたい。

3 下水道事業の基本計画を見直せ

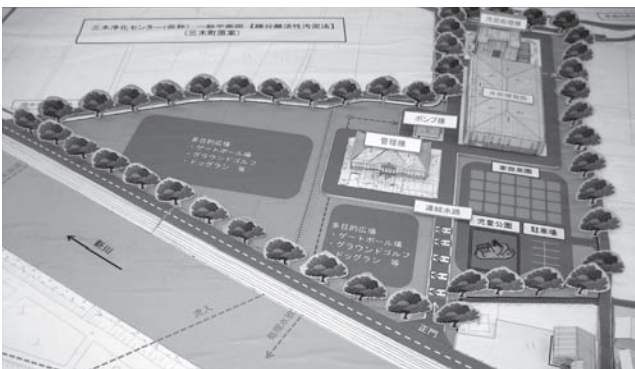
問 今後の下水道事業の計画を見直す可能性はあるのか。

答 町長

現在着工している公共下水道事業、農業集落排水事業は完成を目指していく。未着工の中央、西地域については、住民の意見を聞き新たな計画を検討していく。

提言

公共下水道事業及び農業集落排水事業の推進にあたっては、建設に関する総事業費が将来の財政圧迫に影響を及ぼしかねないので、本管への接続促進と今後、予定されている下水道事業の基本計画の見直しをされたい。



▲三木浄化センター（仮称）の模型

4 各種医療制度の充実と利用度の低い制度の見直しを

問 緊急通報システムの利用件数は。

答 健康福祉課長

22年度は、53人登録し利用者は4人である。
来年度も継続の予定である。



少子高齢化の進展する中、子育て支援を充実するとともに、乳幼児医療制度の対象年齢引き上げ及び高齢者、障がい者、母子などの各種医療制度について、引き続き充実に努められたい。また、介護、予防対策として、地域包括支援センターの充実・拡充により一層努められたい。なお、緊急通報システムの見直しを検討されたい。



▲もしもの時の緊急通報システム

5 町税は貴重な自主財源

問 町民の状況を把握し、納税相談等も含めた取組みは進んでいるか。

答 税務課長

町民の生活や経済活動の状況を踏まえた収納活動に努めている。



町税は町行政の根幹をなす貴重な自主財源であることを深く認識し、町税及び住宅使用料などにおける滞納対策は、現況を把握し納税相談等を行うとともに、特に悪質と認められる者については、法的手段をもって、収納率の向上に引き続き努められたい。また、住民の利便性を図る観点から、納税方法等の多様化を検討されたい。

6 道路網の整備、交通安全施設の充実を

問 町道砂入・荒木線をはじめとする主要南北幹線道路の整備は進んでいるのか。

答 土木建設課長

早期に整備を進めるため、用地の買収等関連する交渉を進めている。



道路網・生活環境整備として、特に、町道砂入・荒木線をはじめとする主要南北幹線道路の早期整備を推進するほか、生活道路（町道及び農道）における未舗装道の解消、山間部路線の整備、また、危険箇所については交通安全施設の充実を図られたい。



▲交通弱者の足となっているコミュニティバス

7 町内全域への路線拡大の検討を

問 コミュニティバス・乗り合いタクシーなどの、調査研究は進んでいるのか。

答 政策情報課長

コミュニティバスについては、田中・神山路線の一部でフリー乗車を実施中である。乗り合いタクシーは、多額の費用を要するため、導入はむずかしい。



コミュニティバスは、高齢者や障がい者など交通弱者の移動手段確保やフリー乗車の拡大など利便性の向上に、なお一層努められたい。また、予約制乗り合いタクシー等を調査研究し、町内全域への路線拡大を図られたい。

請願・陳情のゆくえ

平成23年 陳情第1号 (平成23年7月15日 受付)

高齢者のはり・きゅう・マッサージ治療に対する助成金制度確立について

継続審査

高松市上福岡町2023-8 社団法人 香川県鍼灸マッサージ師会 会長 山本 英介
 高松市上福岡町3-24-7 社団法人 香川県鍼灸師会 会長 佐々木 勝
 三木町池戸2851-1 柴田鍼灸治療院 院長 柴田 芳博

(平成23年10月3日 受付)

なくせじん肺全国キャラバン要望書

議員へ配布

全日本建設交運一般労働組合委員長 藤好重泰・全日本建設交運一般労働組合香川県本部委員長 嶋谷長太郎

(平成23年10月19日受付)

大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める陳情

議員へ配布

香川県高松市栗林町2丁目14-39 香川県医療労働組合連合会 執行委員長 田村瑞敏

(平成23年10月21日受付)

社会保障制度の拡充を求める陳情書

議員へ配布

香川県高松市栗林町1-6-4 香川県社会保障推進協議会 会長 松尾邦之

(平成23年11月 4日受付)

警察、三木町における平井小学校児童(新川より以北)のパトロールの強化、通学路の外灯(防犯灯)の整備、新設、平井小学校スクールバス運行の見直し(4年生〜6年生も送迎対象に) 上記に関する陳情

議員へ配布

三木町氷上4044-1 宮前真吾 ほか14人

(平成23年11月28日受付)

障害者差別禁止条例の制定を求める陳情書

議員へ配布

香川県高松市春日町1035-4 香川障害フォーラム 代表 石川千津子

(平成23年11月28日受付)

障害者総合福祉法に福祉部会の提言を盛り込むことを求める陳情書

議員へ配布

香川県高松市春日町1035-4 香川障害フォーラム 代表 石川千津子

契約しました

第2回 臨時議会 (10月21日 可決)

事件名 平成23年度 町有自動車 (処理水運搬車)購入

契約方法 指名競争入札

指名業者 4社

契約金額 9,333,450円

契約の相手 四国機器株式会社



意見書を提出



議員から次の意見書案が提出された。

審議の結果、全会一致で可決され、内閣総理大臣をはじめ、関係行政庁に提出し、その実現を要請した。

農林業用軽油に係る軽油引取税の
免税等に関する意見書

提出先

内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、
農林水産大臣、衆議院議長、参議院議長

追跡

第21回

レポート

どう
なっとんな？



白山景観整備事業は
今後どのようにするのか

三木町のシンボルである白山を桜で彩るという整備事業は、今後どうするのか。

平成22年12月 一般質問



町長答弁

今後も進める場合、多額の経費と維持管理費が増大する。本年で一旦休止したい。

こうなりました



平成15年から22年まで累計1億3580万6000円使っている。23年度から中止とし、今後は遊歩道の草刈り程度の整備をする。

一般廃棄物最終処分場から出る
浸出水処理費用の対策を

一般廃棄物最終処分場(津柳地区)浸出水処理関連費用に対して、何らかの対策を

平成23年3月 予算審議



町長答弁

費用の軽減を図るためにも、処理方法などの研究をしている。

こうなりました



平成15年から今日まで累積約4億円支出している。平成24年3月からは、933万3450円で購入するタンクローリー車と維持費のみ。

元気なグループ紹介

香川ジュニア

アイスホッケークラブ

監督 浜田 健司

私たち、香川ジュニアアイスホッケークラブは、香川県下で唯一のチームです。

クラブは40年以上の歴史があり、幼稚園児から高校生までの約40人が在籍しています。

近年、中四国大会では、上位入賞の成績を納めました。

アイスホッケーは、氷上の格闘技とも言われ、スピード感、激しさ、コンビプレー、何よりチームが一丸となってゴールを追う姿が魅力です。周りにも感動を与えてくれます。

香川ジュニアアイスホッケーでは、チームメイトを募集していま

す。まずは、見学、無料体験をしてみませんか？初心者の方大歓迎です。防具の貸し出しもしています。

熱く、激しく、スピード感あふれるアイスホッケーの魅力を体感してください。

練習日は週に2〜3回、木曜日19時〜20時まで、日曜日8時〜9時半までです。アイスホッケーに興味のある方、トRESTア白山スケ



▶ チームメイト大募集

広報クリニックス研修

10月24日から25日の2日間、東京都シエーンバツハ・サポーにおいて開催された第75回町村議会広報研修会に議会広報編集委員全員で参加した。

本町の議会だよりも今回のクリニックスに応募し、講師から、読まれる広報誌のための文書表現やレイアウトの作成方法などのアドバイスを受けた。

また、翌26日には、静岡県清水町議会において、町村議会広報写真部門でグランプリとなった写真撮影のテクニクなどを研修し、今後の議会だより作成に活かしたいと感じた。

お気軽に議会を傍聴しませんか

本会議の傍聴人の定員は、30人となっておりますが、当日の午前8時30分で、傍聴希望者が30人を超える場合は、抽選を行います。

●お問い合わせは、議会事務局へ
☎(087) 891-3311
次の定例議会は、3月初旬の予定です。

編集を終えて

今、地方自治体は、それぞれが行財政改革を訴え、取り組んでいます。わが三木町も例外ではありません。とは言え、なぜそれが必要で、どのような方向に進んでいくのか、その意識の共有なくして真の改革は進まないのではないのでしょうか。

町当局も私たち議員も、町民の皆様に対して、こうしたことを「わかりやすく」伝えていかなければなりません。

そして、この「三木町議会だより」がその一翼を担っていくために、内容を充実させていきたいと思えます。

2012年が町民の皆様にとって、三木町にとって未来への飛躍の年なることを願います。
(香西義典)

【議会だよりは私たちが編集しています】

編集委員長	富田 修司
副委員長	渡辺 達実
同 委員	香西 茂知
同 委員	香西 義典
同 委員	村松 修
同 委員	藤井 匠
同 委員	十川 治郎
同 委員	高藤 周介